

# 2025 サマープログラム シアトル研修

2025年8月20日（水）～8月27日（水）



2025年8月20日（水）から6泊8日間という日程で、ワシントン州シアトルでの研修を実施しました。新型コロナによるパンデミックが起きる前は、オレゴン州ポートランドで研修を行ってましたが、2023年度は、ポートランドとシアトルの2都市で開催し、2024年度からは、シアトル1都市での開催となっています。

## 8月20日(水)

出発日は、18時00分に羽田空港第3ターミナルに集合しました。無事に出国ゲートを通過したあと、21時15分発のフライトで、シアトルに向けて出発し、シアトルの空港には、14時25分に到着しました。



## 8月21日(木)

2日目の午前中は、パイクプレイス・マーケットに向かいました。1907年に創設されたパイクプレイス・マーケットは、アメリカでもっとも古く、活気に溢れた最大規模の公共市場です。

パイクプレイス・マーケットでは、2グループに分れて、シニアセンターの見学とフードバンクで食料品の袋詰め等のボランティア活動を行いました。アメリカで、実際のボランティア活動に参加できるというのは、学生にとって貴重な経験でした。現地スタッフとの交流を通じて、アメリカの現状を肌で感じる機会となり、英語でコミュニケーションを取ることにも自信が持てたようでした。

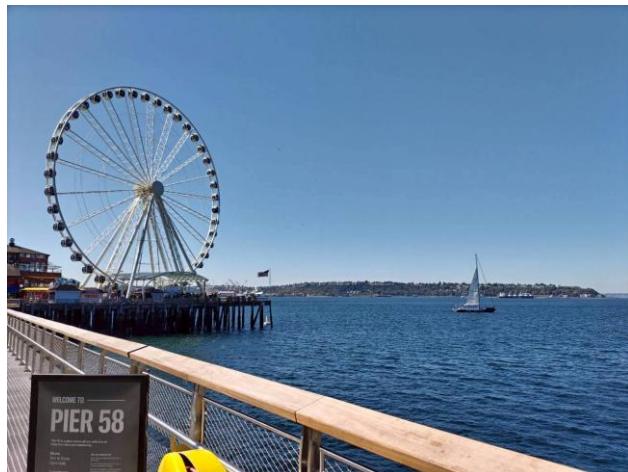


午後からは、Harborview Hospitalを訪れました。施設見学の後、麻酔科医として活躍されている日本人医師の方より日本とアメリカの医療の違いについてご講演いただきました。



## 8月22日(金)

研修3日目は、終日自由行動の日でした。学生たちは、ダウンタウンやショッピング・センターなどを自由に散策しました。昨年、パイクプレイス・マーケットとウォーターフロントを結ぶ遊歩道「オーバーラック・ウォーク」が整備されました。ウォーターフロントには、ギフトショップ、レストラン、観覧車、公園、水族館などがあります。そのような事情もあって、今年は、ウォーターフロントにまで足を延ばす学生が多いようでした。



## 8月23日(土)

研修4日目は、バスティア大学で1日研修を行いました。キャンパスツアーや大学概要説明が行われ、自然医学の先駆的教育と人材育成について理解を深めました。その後の講義では、東洋医学の専門家4名より、栄養学とハーブを用いた自然医学、北米における自然医学医師の役割、アメリカでの鍼灸医学の概要、ホリスティック精神医学による発達障害支援について講演があり、生活習慣・栄養・心身のつながりを重視する包括的な医療の考え方を学ぶ機会となりました。



午後には、人体解剖講習が行われました。少人数のグループに分かれ、ご献体に触れながら説明を受け、自由に質問や観察部位のリクエストができる実践的な学習が行われました。解剖学を学び始めた1年生にとって、実際にご献体に触れながら理解を深める貴重な機会となり、今後の学習意欲の向上につながりました。



8月24日(日)

研修5日目は、ラフティング体験を行いました。オンライン学習が広がる今だからこそ、自然の中で身体全体を使った活動は、学生にとって貴重な体験となりました。アメリカの壮大な景色や自然の音、冷たい水の感触など、五感で自然を感じる経験は、忘れられない思い出となりました。

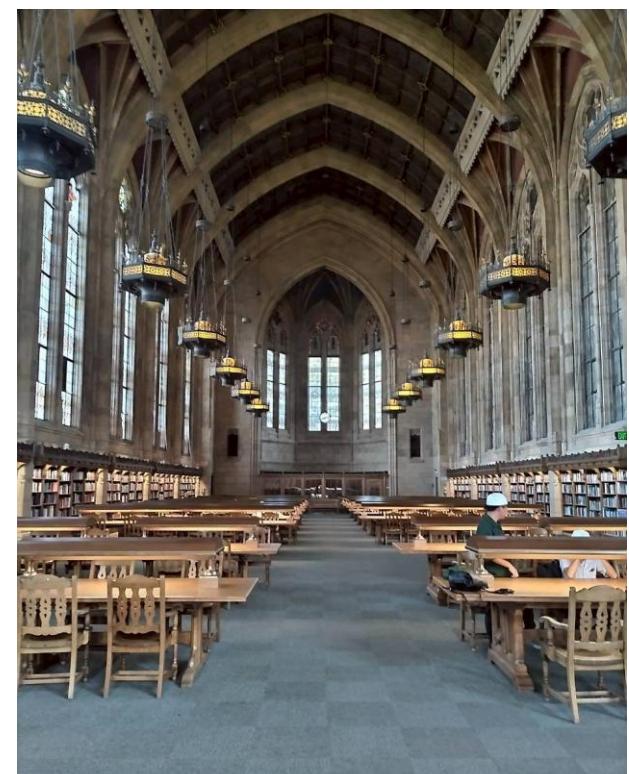


## 8月25日(月)

研修6日目の午前中には、ワシントン大学看護学部のシミュレーションセンターを訪問しました。同センターでは、最新機器や高性能シミュレーター、医療用ムラージュを用いた実践的な教育が行われており、学生は正確な判断力や技術、臨床推論能力を養うことができます。今回の研修でも、昨年に引き続き医療用ムラージュを用いた最先端の医療教育を体験することができました。



午後からは、8グループに分かれて、現地の大学生とワシントン大学内の施設や周辺のエリアを散策しました。ワシントン大学内の施設は、どれも洗練されたデザインのものが多く、特に図書館は、圧巻のスケールでした。学生たちは、同世代の若者と英語でコミュニケーションを取りながら、散策するのを楽しんでいました。



8月26日(火)・  
27日(水)

8月26日(火)、16時30分発のフライトで、羽田空港に向けて出発しました。  
日本時間8月27日(水)19時頃、羽田空港に無事到着しました。

10月1日(水)

10月に懇親会を開催し、短い時間ではありましたが、思い出を語り合い、久しぶりの再会を楽しみました。また、本研修に関するアンケート結果から、参加学生の満足度は非常に高く、特に人体解剖講習が強く印象に残ったとの回答が多く見られました。

終わりに

今回のアメリカ研修では、日本とアメリカの医療の違いを学ぶとともに、現地の医療スタッフや患者、ボランティア、高齢者など多様な立場の人々と交流する貴重な機会となりました。医療制度や保険制度、NGO・ボランティアの役割についての理解を深め、将来の医療現場で活かせる実践的な学びを得ることができました。本研修は、国際的な視野を持つ医療人材の育成を目指す本学にとって、非常に意義深いプログラムです。

研修の開催にあたりご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

